

1. 活動報告（事務局 記）

- 8月28日（日）新しく入会された山田さんを含む9名の会員が参加し、駐車場の除草、草原ゾーンの除草、除去草の収集の作業を実施しました。

- 9月4日（日）13名の会員が参加し、上流部耕作放棄地の除草（観察隊活動の準備）、観察路の除草、除去草の収集および焼却、水路内の砂除去、および除去砂を用いた整地の作業を実施しました。

- 9月17日（土）本日の活動は、親子自然観察隊（秋の昆虫）でした。天気は曇気味でしたが、二班に分かれ上流部およびビオトープ内で昆虫を捕まえました。この後、11時から東屋で昆虫の同定をしました。採取された昆虫は、トンボ、バッタなど20種以上に及びました。参加は、親14名、子24名、幼児3名、山大生2名、会員8名でした。

- 9月19日（月）原田会長の呼びかけにより臨時作業を行いました。台風14号の大雨により、水戸付近の水路に大量の砂が堆積しておりました。これを除去する作業をPM四時半～五時半に、実施しました。参加した会員は、会長以下10名です。

- 9月25日（日）会員8名と生物多様性応援隊員2名が参加し、除去草の撤去、ハス田のウシガエルオタマジャクシ除去（蓮田の水を抜いて）、ヨケジの除草及びオタマジャクシ除去の作業を行いました。この結果、オタマジャクシ200匹以上捕獲し、処分しました。また、コガタノゲンゴロウ、ミズカマキリなど、貴重な水棲動物を確認しました。

2. 今後の予定（事務局 記）

◎行 事

- 10月2日（日）維持活動（草刈り・稲刈り準備）
- 10月9日（日）収穫祭 Part-1 稲作体験（稲刈り・ハゼ懸け）
（篠崎市長ご招待・親子自然観察隊・二俣瀬子ども会を招聘）
- 10月23日（日）脱穀・維持活動（草刈り・エコアップ）

3. 来訪者の声

今回はありません。

4. 会員の声 「鬼の霍乱」 （原田満州夫 記）

最近とみに医者のお世話になることが多くなった。持病と言えば、飽食の時代に贅沢病の一つ「痛風」で、57歳からお抱えのお医者さんに毎月1回の診断と薬の受け取りを行っていた。

コロナがやはり後期高齢者を優先的に4回の予防ワクチンの接種もすました。コロナにはいまだに陽性になっていない。

何が「鬼の霍乱」か？と言えば、今までに風邪など引いたこともない、インフルエンザの予防接種なども受けたこともない、まったく病気とは縁遠い人間が80歳近くになってから膝・腰・手の甲などの痛みや食あたりなど多く感じるが多くなった。付き合いの人との話の中で「あんたはどうか？」とか「自分の身体の具合の説明」「どこの病院が良いか？」などと話の内容が生産的でなく同情をかう様な説明と自慢話になってきている。

すなわち「鬼の霍乱」であろう。

ビオトープの今後も「病気もちの自慢話」を混ぜながら活動を続けていこう。

5. 親子自然観察隊 （秋の昆虫観察） （菅 隊長 記）

今年の昆虫採集会は、大型台風14号が来る直前でしたが、いつになく大勢の参加がありました。子隊員だけでも25名の出席があり、チームを2組に分け行きました。1組は年長組として昭和山方面へ、年少組はため池周りを探検しました。台風が近づき雨や風を心配しましたが、幸いお天気も良く風もなく、にぎやかに昆虫採集は執り行われました。

お天気は曇り空で時々晴れ、気温は30℃と高くむし暑かったのですが、直射日光を避けられてたすかりました。チョウやトンボは少なかったのですが、バッタやコオロギ類が多く、隊員たちも頑張って多くの昆虫を採集しました。中にはカエル、ニホンカナヘビやムカデなどの生き物を捕まえていましたが、採集した数には入れませんでした。

【採集した昆虫類】

・トンボ類：マユタテアカネ、リスアカネ、ヒメアカネ、シオカラトンボ、ショウジョウトンボ、ネキトンボ、ハグロトンボ、ギンヤンマ（幼虫）、ベニイトトンボ、アオイトトンボ、モノサシトンボ。

・チョウ類：キタキチョウ、ヤマトシジミ、クロコノマチョウ幼虫、さなぎ（*1）。
ウラギンシジミ前幼虫、さなぎ（*2）。

・バッタ類：トノサマバッタ、クルマバッタ、オンブバッタ、ショウリョウバッタ、ショウリョウバッタモドキ、イボバッタ、エンマコオロギ、ツチイナゴ、ハネナガイナゴ、オナガササキリ。

・甲虫類：センチコガネ。

・カマキリ類：オオカマキリ、コカマキリ、ムネアカハラビロカマキリ（*3）。

・アブ、ハチ類：オオスズメバチ、クロスズメバチ。



準備完了



観察会の様子

面白い昆虫たちをビオトープのフィールドで見つけました、紹介しておきます。

*** 1. 【クロコノマチョウ】**

・「ジュズダマ」の草を幼虫は食べ成長します。ビオトープの須賀河内川には一部に生育しています。毎年幼虫と蛹は確認されています。



幼虫



サナギ



クロコノマチョウ

*** 2 【ウラギンシジミ】**

ウラギンシジミの幼虫は「クズの花」を食べますので、クズの花を見つけ幼虫を探してみませんか？ちょうど夏の時期が見つかるチャンスです。しかし、クズの花はどこにでもあり、幼虫も広範囲に散っていますので、なかなか見つかりません。

ビオトープでは山大生が見つけてくれました。翅の色がきれいです。



幼虫



前幼虫



サナギ



ウラギンシジミ裏



♂の表



♀の表

* 3. 【ムネアカハラビロカマキリ】

近年になって外国より入り込んだ外来のカマキリ。在来の「ハラビロカマキリ」より繁殖能力が高いようで、ハラビロカマキリが少なくなっているようです。



ムネアカハラビロカマキリ♀



親子自然観察隊の感想

★竹内（父）

色んな昆虫が見れて楽しかったです。

★竹内結咲

沢山昆虫見れて楽しかった。

★竹内（母）

結咲が赤いいとんぼを、捕まえていて天然記念物だと聞いてびっくりでした。しかし山口にはまあまあいるそうで、自然豊かな山口なんだと改めて思いました。アサギマダラ今年見れなかったのが、残念でした。楽しかったです。

★渡邊芹

外来種のカマキリを捕まえて楽しかったです。

★渡邊萱

ムネアカを捕まえることができた。楽しかったです。

★溝邊睦

管先生と虫を捕まえることが楽しかったです。管先生がカナヘビを捕まえてくれて楽しかったです。

★溝邊義人

みんなと昆虫採集したりカエルを捕まえたり楽しかったです。

★溝邊寛人

大きなニホンアカガエルを捕まえることができて嬉しかったです。

★溝邊恵(母)

黒コノマチョウの幼虫やサナギを教えていただいたり、赤とんぼとと思っているとんぼも顔や色の違いでネキトンボ、ショウジョウトンボなど種類が分かれていることを教えていただいて、子供たちもビオトープでとても楽しそうに過ごしていていつも感謝です。ありがとうございました。

★岡村政吾(小1)

カエルを捕まえられて嬉しかったです

★岡村悠正(小3)

スズメバチが秋に凶暴になる、って初めて知りました！みんなの捕まえた虫を見るのが嬉しかったです

★矢野(母)

昆虫採取とても嬉しかったです(*^*)終わった後の先生方の実物を見ながら触りながらのお話にいつも、『ほお～、へえ～。知らないことだらけの身近な虫や自然について勉強になります。

★矢野晴太

目的としていたオオカマキリを見つけることができて嬉しかったです。今回は大物は少なかったけど、色んなトンボを捕まえる事ができました。来年はオニヤンマや銀ヤンマに出会いたいです！

★矢野ひより

最初は中々虫を捕まえることが出来なかったけど、父がカマキリを2匹見つけてくれて捕まえる事ができました。(触れなかったけど…) しょうりょうバツタモドキというものがあることを初めて知りました。先生に特徴を教えてもらったので、今度ゲットした時は注意して観察してみようと思います。

★中島美咲

大学生のお姉さんと一緒に虫取りをしました。たくさん色々な虫を捕まえました。トカゲは手で捕まえました。名前を最後に教えてもらいました。赤いトンボでも名前が2つあってややこしいと思いました。とっても嬉しかった。

★森 蒼真

虫はあまり好きではなかったけど、トンボを捕まえて、とても楽しくなりました。沢山の昆虫を観察出来て嬉しかったです。

★森 恒太

最初はあまり採れなかったけど、タイコウチやゲンゴローを捕まえて嬉しかったです。

森(母)

日ごろ、子どもたちに自然の中で自由に昆虫を捕まえる事をさせていなかったのも貴重な体験となりました。ありがとうございました。

★篠田(母)

先生や学生さんと共に採取して回った時間は、驚きの連続で、大変充実したものでした。これまで、単に「赤とんぼ」とひと括りに呼んでいただけ、こんなに色々な種類があるとは思わなかったし、メスは赤くないということも初めて知りました。昆虫の種類の見分け

方を教わったり、捕まえ方を教わったり。先生がオオスズメバチやムカデを捕獲するのを見れたり。最初から最後までとても楽しく学ぶことが出来ました。子供たちも、昆虫だけでなく、カナヘビやカエルまで捕まえて、とても楽しそうでした。自然の中で自由に触れて戯れて学べる機会は貴重で、お世話してくださる皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。稲刈りも楽しみにしています。

★中村（母）

少しの時間でも、いろんな虫が見つかって、楽しい時間を過ごすことが出来ました。虫がいるということは、自然が豊かな証拠であり、これからも、この自然を守っていかないといけないと感じました、

★藤原（母）

お天気が悪くなくよかったです！ 少し普段見ないようないろんな昆虫もいるかと期待しすぎてしまったところもありますが、カマキリやバッタ、珍しいトンボなど細かい違い、とても勉強になりました！ 先生の説明の後半は少し飽きてしまった子はヤゴをとったりまだハンターの続きをしてしまいましたが、親が真剣に聞けました。田んぼと川があれば一日中遊べそうです。ありがとうございました。

6. ビオトープ関連：「山口県の昆虫たち」（管 哲郎 記）

(79) アオバセセリ *Choaspes benjaminii* セセリチョウ科

大型のセセリチョウ、4月～9月に見られ、春はウツギノ花、アセビの花やグミの花などに訪花し、溪流の岩などに落とされた鳥や小動物のフンでの給水が見られます。幼虫の顔面と成虫の翅の先端に朱色が見られ、翅は青緑色で美しいセセリチョウです。また、セセリチョウ類は大変元気なので、網で捕獲してもすぐに取り押さえないと網の中で暴れ、あっという間に翅の鱗粉が落ちてしまい、標本にはできなくなるほどです。

幼虫探しは楽しいのですが、生息する「アワブキ」という樹木を探さねばなりません。アワブキは溪流沿いに自生しますが、普段より探しておかなければ見つかりません。筆者も仲間より教えられています、山口県内でも4～5か所ほどしか知りませんので、これからもアワブキの木を1本でも多く見つけておきたいと思っています。



幼虫のねぐら



ねぐらの幼虫の様子



葉を食べる幼虫



アセビの花で吸蜜



小動物のフンで給水

7. 会よりの連絡事項

1) 今年は稲作体験が1年越しに行うことになった。イベントとして「稲の刈り取り」と「爆ぜ（ハゼ）かけ」の作業を**収穫祭Part-1**として盛大に行いたい。

この「コロナ禍」で落ち込んだ活動も一変したい。そこで 篠崎宇部市長もご臨席を仰いだり、二俣瀬地区のコミニテイ協議会の支援を受け「二俣瀬たる太鼓」をオープンセレモニーとして景気づけで演奏していただく計画である。

2) 約1年間ビオトープを善しにつけ悪しきにつけ賑わしてくれた子サルの行方が9月6日以降全く姿が見られず。9月7日午後4時ごろ東北側の林元会員方山頂上付近より大きな子ザルの鳴き声が3回くらい聞こえたがそれ以後は姿も声も聞こえなくなった。もちろん東屋周辺のいたずらもなくなった。

寂しい限りであるが、つくる会での今後の内輪もめは無くなったと言える。

8. 編集後記 (中本 亜矢子 記)

17日、親子自然観察隊で、秋の昆虫観察を実施しました。大型台風14号の接近中、お天気が心配されましたが、当日は観察日和で何よりでした。参加したみなさんの感想を読むと、ビオトープの虫や生き物に触れて、笑顔あふれている様子が目に浮かびます。トンボやバッタ、カマキリや蝶。カエル、ゲンゴロウ、タイコウチ、トカゲ。子どもが興味を持つものなら、なんでもOK。虫でなくても自由に観察できる柔軟な会なのです。管隊長は子どもが捕獲してきたものに丁寧に解説をします。当日、私は参加できなかったのですが、みなさんの感想から、まるでその場にいたかのように場面が浮かび、楽しい気持ちになりました。観察会がきっかけで虫が好きになった子どももいます。コロナ禍で行動制限がかかることが多いですが、短時間でも人が集まって一緒に時間を過ごすことの大切さを改めて感じました。最後にひとこと。17日のために大人の背丈ほども伸びた耕作放棄地に入って、観察道をつくってくれた会員の皆さん、ありがとうございました。草刈りの様子は里山ビオトープのFacebookで見ることができます。